

第3章

まちづくりの基本方針

第3章

まちづくりの基本方針

3-1 まちづくりの理念と基本方針

人口減少・少子高齢化の影響で中心市街地を含めたまち全体の賑わいが低下する中、今ある多様な資源や既存ストックを十分に活かした、誰もが安心して住み続けられるまちづくりが求められています。

本市では、市民ワークショップやふるさとキャリア教育による「人育て」が積極的に進められており、若い人がまちについて考え発言する機会が多くあります。そこで、まちの未来を担う若者を主人公として捉え、これからのまちづくりを推進します。併せて、空き店舗等の既存ストックが多数存在するまちなかの活用を図りながら、まちなかと各拠点をネットワークで連携し、市全体の資源や機能、サービス等をつなげます。交通ネットワークを利用して誰もが自由に移動でき、あらゆる世代の市民が交流することができる、安全で快適な暮らしづくりを目指します。これらの方向性を踏まえ、本市のまちづくりの理念と基本方針を次に定めます。

まちづくりの理念

未来を担う若者が主人公となるまちなか活用 そこからつながる多世代が快適な暮らしづくり

基本方針

1 土地利用がもっと充実する

- 市街地では既存ストックを有効活用した土地利用、周辺部では豊かな自然や農地を保全する土地利用を推進

2 もっとまちなかを活用する

- リノベーションによりまちなかの既存ストックを活用し、快適な住環境の形成と日常生活サービス機能を誘導
- 中心拠点機能を強化し、集落拠点との連携や関連計画の効果的な推進

3 もっと地域の力を活用する

- 公共施設や空き家等を活用した小さな拠点（地域経営組織）の整備
- 農村と都市部の交流強化、地産地消の推進
- 農村の住環境改善による集落や農業の維持
- 空き地や既存施設を活用し、地域における防災対策を強化

4 もっと資源をつなげる

- 歴史まちづくりと連携した景観形成と住民意識向上
- 若者の就業希望とのすり合わせ、情報発信、仕事の創出や起業に対する支援
- 豊かな自然や秋田犬等の魅力を観光振興につなげ、地域産業の活性化や交流人口の拡大

5 もっと機能をつなげる

- 効率的な公共交通網の再編、公共交通の利便性向上・外出増加
- 公共交通不便地域等への細やかな対応
- まちなかの資源を活用した大館版C C R Cの推進

3-2 まちの将来構造

まちづくりの理念を実現するために、主要な都市機能や骨格となる道路網、土地利用等について基本的な方向性を定め、将来あるべき都市構造を次に示します。

(1) 現在の都市構造

本市の現在の都市構造は、奥州街道とならぶ東北の二大街道の一つであった羽州街道や河川沿いに「人」の字型の市街地が形成され、行政施設をはじめ、公共公益施設、商業・業務施設、観光施設等の都市機能が集中しています。本市の骨格となる国道や鉄道は、現在も羽州街道とほぼ同じ場所を通過し、街道と舟運で栄えた米代川、鹿角街道との合流地点として「人」の字型の道路ネットワークが形成されてきました。その市街地周辺を取り囲むように、秋田杉林等、歴史ある緑を含む豊かな自然がまとまって残り、田園地帯や山間に集落が点在しています。



近年、中心市街地における空き地・空き家が増加し、中心部のスポンジ化や賑わいの低下がみられる一方、郊外部では大型店や住宅等といった都市的土地利用の拡大と、それに伴う自然的土地利用の減少が懸念されています。また、農村地域においては、人口減少や高齢化の進行により、暮らしやすさの維持・向上がさらに求められる状況にあります。

(2) 将来の都市構造の考え方

こうした現状を踏まえ、将来あるべき都市構造として、大館地域・比内地域・田代地域の中心部を賑わい創出の拠点として位置づけ、市街地における都市機能の充実・利便性の向上と、周辺における豊かな自然の維持・保全を目指します。

市街地では、資源や既存ストックを有効に活用することで、都市機能がコンパクトに集積し、誰もが住みたい・歩きたいと感じられるまちづくりを目指します。

郊外部では、生活利便性を確保する拠点を配置するとともに、道路ネットワークを効率的に活用し、まちなかや拠点同士を結ぶ移動環境を整え、郊外の豊かな自然環境と市街地の利便性を相互に共有できるようにしていきます。

周辺の田園や山々、河川といった豊かな自然は、市民がゆとりある生活を営む上で欠くことのできないものとして保全・活用を図り、緑あふれる都市空間の創造を目指します。

このように、市内の拠点が相互に結びつき、市街地とその周辺の豊かな自然環境が調和し、誰もが安心して暮らし続けることができる都市構造を目指します。



図 将来都市構造

**賑わい創出の拠点**

本市の成り立ちを踏まえ、歴史ある賑わい拠点として大館地域・比内地域・田代地域の中心部を位置づけ、生活利便性の向上を図ります。市民や来訪者による文化の交流、情報発信を通じて、まち全体の活性化を促進します。

**生活の支えとなる地域拠点**

日常生活の支えとなる地域の拠点を形成し、誰もが暮らしやすいまちづくりを目指します。拠点は公共交通により中心市街地等と結ばれ、利便性の向上を図ります。

**まちを支える工業拠点**

二井田地区工業団地、花岡・花岡第二工業団地等、本市の産業を支え、雇用を創出する工業拠点として、周辺環境との調和を図りながら、産業の適切な集積を推進します。

**緑とふれあいの拠点**

身近な憩いの場として、長根山運動公園、二ツ山総合公園、長木川河川緑地、達子森公園、田代スポーツ公園をみどりの拠点と位置づけ、保全・活用を図ります。

**地域の景観をつくる山々**

鳳凰山、達子森、田代岳等、豊かな景観を形成する山々を維持・保全し、うるおいあるまちづくりを推進します。

**市街地と拠点同士のつながり**

「人」の字型に形成された市街地と、それぞれの拠点同士とのつながりを維持することで、本市で育まれた伝統文化や豊かな資源を活かした交流を促進します。

**地域の生活を支える田園・集落**

農業は暮らしを支える地域産業の基盤であり、美しい田園風景は人々にやすらぎを与えます。田園の維持・保全を図り、集落における良好な住環境を保ちます。

**まち全体を包む豊かな緑**

かつて鉱山で栄え、まち全体を包み込むような山々は、自然豊かな大館らしい風景を形成しています。秋田杉を用いた伝統工芸等、持続可能な産業を推進しながら、雄大な自然の維持・保全を図ります。

**基幹都市軸・連携軸**

日本海沿岸東北自動車道を基幹都市軸として位置づけて整備の充実を図り、周辺市町との広域的な連携の強化を推進するとともに、拠点同士の連携により利便性を確保します。

**人々が行き交う交流の軸**

国道7号や国道103号等、「人」の字型に交わる国道は、都市の骨格を形成する重要な路線として機能しており、地域の人々が行き交い交流する軸として位置づけます。中心市街地、地域拠点、周辺市町それぞれの連携を強化し、まち全体の交流促進を図ります。

**水と緑のネットワーク**

市内を流れる米代川や長木川等の河川、水辺、公園緑地を相互につなぎ、水と緑のネットワークとして位置づけます。市民が豊かな緑とふれあえる空間づくりを推進し、憩いの場として生活に活かします。

